

会員各位

**第142回**  
**Klub Zukunft 月例会**  
— 歴史・文化に親しむ会 —

初夏の候、皆さまにはお変わりなくお過ごしでしょうか。

さて、今月第142回月例会は石洞美術館館長、兵庫陶芸美術館副館長の弓場紀知様にお越しいただき、日本における中国陶磁研究の礎となった1500点を誇る東京国立博物館の質・量ともに世界最大規模の「横河コレクション」をテーマにお話をいただきます。

日本のやきものの趣味は9世紀の平安時代の喫茶の流行に始まります。茶碗は中国のやきもので「唐物」と呼ばれました。唐物数寄は室町の東山時代に頂点を迎えます。

その象徴が「天目茶碗」。掛物は牧溪の水墨画。桃山・江戸時代には茶道具は格式の高い道具として大名、商人たちに絶賛され、そのほとんどは徳川家が独占しました。

近代になるとやきものそのものの美しさが求められました。そうしたやきものは「鑑賞陶器」と呼ばれます。それはヨーロッパからの流れです。

建築家であり、実業家としても活躍された横河民輔博士は今日の横河橋梁、横河電気の創業者でもあります。そうした事業と共に博士は中国のやきものの蒐集にも力を入れその全てのコレクション1500点は東京国立博物館に寄贈され「横河コレクション」として日本の中国陶磁研究の代表的作品として知られています。横河コレクション無くして日本の中国陶磁研究はないと行っても過言ではないでしょう。

上野公園の西洋美術館には松方コレクションも有名ですがこれも神戸が生んだ西洋絵画コレクションです。明石に生まれた横河博士、神戸が生んだ松方幸次郎という関西から発信元をもつ2大コレクターのことは地元関西ではほとんど知られていません。日本の芸術鑑賞の基礎は関西出身の2人の実業家によってうみだされたのです。今回はそのうちの横河コレクションを中心にお話しいただきます。

皆様のご参加をお待ちしています。また、皆さまのお友達にも参加の働きかけをしていただき、一緒にご出席いただければと思います。どうぞ奮ってご参加ください。

◆ 日時： 2018年6月27日（水曜日） 16:00～17:30

◆ 場所： 大阪市立大学 文化交流センター  
大阪市北区梅田1-2-2-600 大阪駅前第2ビル6階

◆ テーマ： 「明石が生んだ世界的中国陶磁コレクター・横河民輔」

◆ 講師： 弓場紀知様（石洞美術館館長、兵庫陶芸美術館副館長）

◆ 参加料： 正会員； 500円 / 賛助会員&一般； 1,000円

◆ 月例会への参加はKlub Zukunftのホームページからお申し込み下さい。  
<http://klubzukunft.com/>

◆ 尚、月例会終了後、懇親会を開催しますので、併せてご参加下さい。（会費は実費）  
以上